

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2	齋藤 尚志
<p>【授業のテーマ及び到達目標】</p> <p>この授業では、「子どもを指導するとはどのようなことなのか」という原理的な問いを出発点にし、生徒指導・生活指導について考え、理解を深めていく。</p> <p>①生徒指導・生活指導の意義や原理を理解する。</p> <p>②すべての子どもを対象とした学級・学年・学校における生徒指導・生活指導の進め方を理解する。</p> <p>③子どもが抱える生活上の課題のありようと、養護教諭等の教職員や外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応のあり方を理解する。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>まずは「生活指導」の前提にある子ども観・子ども理解、子どもの育ちと生活(生活背景)との関わりについて学ぶ。次に、「生活指導」の基礎的な事項(必要性や機能など)を確認し、学校教育における「生活指導」の役割を理解する。その際、具体的な事例の検討をととして、課題や問題を抱える子どもにとって最も適した指導とはどのようなものなのかを追究し、実践的な思考や力量の形成を目指す。最後に、子どもが自分自身の将来をどのように描き、どのように歩んでいくのかを共に創り上げていく進路指導についても理解を深める。授業はテキストとレジュメを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行う。また必要に応じて映像を用いる。2～5名からなるグループ・ワークを適宜用い、テーマに応じた発表を行う。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p>			
1. オリエンテーション			
2. 子ども理解 ー子どもの最善の利益、生活背景、個と集団などー			
3. 教育課程における生徒指導の位置づけ ー各教科等との関連も含めてー			
4. 子どもの生活世界と生きづらさ① ー理論・歴史ー			
5. 子どもの生活世界と生きづらさ② ー事例研究Aー			
6. 子ども集団・クラス運営① ー理論・歴史ー			
7. 子ども集団・クラス運営② ー事例研究Bー			
8. 校則・体罰・懲戒等の生徒指導・生活指導 ー歴史・法令等ー			
9. 校則・体罰・懲戒等に頼らない生徒指導・生活指導のとらえ方 ー事例研究Cー			
10. スクールソーシャルワークのとらえ方 ー同和教育・人権教育も含むー			
11. スクールソーシャルワークのとらえ方 ー事例研究Dー			
12. 権利としてのキャリア教育 ー理論・歴史ー			
13. 権利としてのキャリア教育 ー事例研究Eー			
14. 安全・防災と生徒指導・生活指導			
15. まとめ			
<p>【準備学習の内容】</p> <p>予習のあり方: ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を示し、幅広く情報を得ておくこと。児童館や子育て支援サークルなどの保育ボランティアなどたくさんの経験を積極的に積むこと。教育や子どものことなどについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本をなるべく多く読むこと。</p> <p>学習のあり方: 教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自分の言動が子どもに対し善悪交々の多大なる影響を与えること、を自覚すること。その上で、子ども自身が育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのかを想定しながら、授業やグループワー</p>			

クに参加してください。

復習のあり方: 授業内容についての疑問点を整理し、ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解いてみること。疑問や質問は授業中でも授業後でも必ずその時に解決する習慣をつけましょう。

【成績評価】

課題提出などを含む授業への参加度合(30%)、グループ発表およびレポート(70%)をもとに総合的に評価する。すべて出席するのが原則です。遅刻・欠席は「参加度合」として不適切と判断します。健康管理や早めの行動を心がけてください。

【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

【テキスト】

山本敏郎・藤井啓之ほか著『新しい時代の生活指導』 有斐閣アルマ 2014

【参考文献】

授業中に適宜指示する。